

学校教育自己診断の結果と分析について【令和7年度実施分】

1. 全般について

学校教育自己診断の生徒回答数は 357 件となり、R6 の 493 件からは減少したが、R5 の 286 件よりは増加している。保護者の回答数は 168 件（R6：200 件、R5：202 件）、教職員の回答数は 31 件（R6：31 件、R5：45 件）であった。以下では肯定率の推移とともに、各領域の課題と強みを整理する。

2. 学校に対する意識に関するもの

生徒の「学校行事は楽しく参加できるように、工夫されている」の肯定率は 85.4%（R6：82.7%、R5：82.5%）となっており、引き続き高い評価を得ている。

一方、「学校は楽しい」は 63.8%（R6：61.8%、R5：67.5%）で、R6 からはやや持ち直したものの、依然として高い水準とは言い切れない。ただし、「安心して学校生活を送れている」は 88.8%（R6：88.1%、R5：89.5%）と高水準で安定しており、本校の支援・指導の成果が表れていると考えられる。

3. 生徒指導に関するもの

生徒の「学校生活についての先生の指導には納得できる」の肯定率は 94.6%（R6：92.2%、R5：89.5%）と高く、指導の納得感が高水準を維持している。また、新設項目である「いじめについても含め、困っていることがあれば真剣に対応してくれる」は 93.2%と高い肯定率であり、生徒の安心感を支える重要な要素となっている。一方で、「気軽に質問や相談をすることができる先生がいる」の肯定率は 63.4%（R6：66.2%、R5：69.4%）と低下傾向が続いている。重大事案の未然防止の観点から、校内に限らず校外の相談窓口についてもきめ細かに周知する必要がある。

保護者の「いじめ等、子どもが困っていることがあれば真剣に対応してくれる」は 84.2%と高く、学校対応への信頼が一定確保されている。また、「子どもから学校でのいじめの話を聞くことがある」は「はい」4.8%（R6：1.5%、R5：1.5%）であり、少数ではあるが前年差で増加がみられるため、未然防止・早期発見の取組を継続しつつ、相談・通報のしやすさをさらに高めたい。

4. 進路指導に関すること

生徒の「将来の進路や生きがいについて考える機会がある」は 75.8%（R6：73.2%、R5：91.9%）で、R6 からは改善している。

保護者の「学校は子どもに将来の進路や職業などについて適切な指導を行っている」は 80.4%（R6：68.7%、R5：76.0%）と大きく上昇しており、進路指導に対する保護者側の評価も改善している。

学校へ申し出た進学希望者・就職希望者に対しては個別支援が機能している一方、

キャリア教育を「全員に体系的に届ける」仕組みは引き続き課題である。今後はキャリア教育コーディネーターや関係機関とも連携し、HR 等も活用しながら、進路・生きがいを考える機会を計画的に確保していきたい。

5. 学習指導に関すること

学習面は引き続き高水準である。生徒の「レポートは自分の力で完成できる内容」は 95.2% (R6：93.0%、R5：94.8%) と上昇している。また、「スクーリングの内容はわかりやすく学習の助けになっている」は 95.8% (R6：93.4%、R5：92.6%) と非常に高い評価で、授業の質が安定している。「レポートの添削は理解を深めるのに役立つ」は 91.3% (R6：91.8%、R5：89.8%) であり、高水準を維持している。

学習の進捗に関しては、「学習が自分の計画どおりに進んでいる」は 72.8% (R6：72.6%、R5：80.2%) で、R6 からほぼ横ばいである。計画どおりに進まない理由（「あまり」「全く」回答者の内訳）では、「やる気が出なかった」が 31.4%で最も多く、次いで「体調不良」21.5%、「学校以外の活動で忙しい」20.9%などが続く。

したがって、学習内容や添削の質の改善だけでなく、学習継続を支える伴走（学習計画の立て直し、体調・生活リズムへの支援、モチベーション支援）が重要であると考えられる。

ICT・情報発信に関しては、「1人1台端末や Google Classroom、Gmail 等の活用」は 87.9% (R6：89.9%、R5：85.2%) と高い。

一方、「学校のホームページはわかりやすい」は 79.3% (R6：81.1%、R5：87.3%) で低下傾向がみられる。

スクーリング時間割の確認手段では、桃谷通信 31.8%、学校 HP 28.1%、スクーリングボード 31.2%となっており、複数の手段での情報提供は機能している。今後も様々な手段を用いて情報提供を行っていきつつ、HP がよりわかりやすくなるようにしていく。

6. 道徳・人権教育に関するもの

生徒の「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」は 82.8% (R6：81.1%、R5：71.9%) と上昇を続けている。

教職員の人権・多様性に関する複数項目も概ね高水準であり、「人権問題の理解」86.2%、「在日外国人差別のない社会」86.7%、「障がい者差別のない社会」90.0%、「男女共生」83.3%など、学校としての方向性が一定共有されている。

今後も学習内容の工夫と実践の共有を進め、より一層充実させていきたい。